

生活

✉ seikatsu@asahi.com

あなたの安心

東北地方に住む40代の女性社員は2年前、自宅アパートで盗撮の被害にあった。盗撮を疑ったのは、かつて交際していた男からの携帯メールがきっかけだ。「いま、シャワーから出てきたね」。外からは絶対に見えないはず

なのに、部屋の中での行動をリアルタイムでメールに書いて送りつけてきたのだ。怖くなって警察に相談した。しかし「盗撮や盗聴の機材があるだろう」だけでは警察は動けない。証拠を見つけてからにして欲しい。女性は一調べてくれる業者だけでも教えて欲しい」と頼んだが、「そういう情報は持っていない」と言われた。仕方なく、会社の上司に相談したところ、インターネットで探査業者を見つけてくれた。すぐに電話して盗聴・盗撮探査を依頼した。10日後に訪れた男性調査員はモニター

盗聴・盗撮を防ぐ①



ヘッドホンをつけ、機器のモニターを見つめながらの盗聴器探査。盗聴や盗撮の機材を探す専門技術者がいる＝埼玉県

部屋の小物入れからカメラ、心の傷に

付きの機器で異常な電波がないか調べた後、部屋の中を見て回った。すると、パソコンの近くにあった小物入れに不審なコードがあり、パソコン

男が部屋を持ち込んだものだった。「泣きました。(カメラがないことを祈っていたけど、一番嫌な所から出てきた)。カメラのレンズは部屋中を見渡せる位置にセットされてあった。

以降、情緒不安定になり、体調を崩した。人の目も気になり、あまり外出もしない。「ずっとこのかなと思うと嫌になる」。受けた心の傷は深い。

盗聴、盗撮は本人が気づかないうちに個人のプライバシーを侵害する深刻な問題です。その被害の実態と対策について、6回連載でお伝えします。(稲垣大志郎)

出てきたカメラは「ネットワークカメラ」と呼ばれるもので、主にパソコンを使ったテレビ電話や、防犯用カメラに使われる。パソコン店や通信販売でだれでも普通に買えるものだった。撮られた映像はおそらく男が保存している。「もし、流出したら……。そこまでする人とは思いたくないけど」。

✉ 春ら不安にかかわる不安や疑問をお寄せください。住所、電話番号、氏名を明記の上、〒104・8011 朝日新聞生活グループ「あなたの安心」係へ。ファクス03・5540・7354。メールアドレスは上記。